佳作

電気の大切さが分かったこと

福島県　中島村立滑津小学校四年　馬水　彩愛

わたしは、この夏、「電気の大切さ」を本当に感じ、電気を大切にしたいと思いました。

夏休みに、私が初めて体けんしたこと、それはてい電です。

夜おそくに、盆おどりから帰ってきて電気がつかなくてびっくりしました。そして、それに気付いて外をみたら周りの家もまっ暗になっていて、急にこわくなってしまいました。

外にいるのも不安だったので、家に入ってお母さんがキャンプで使っているランタンをたくさん出してくれました。じゅう電式のせん風機もあったので、それでなんとかすごすことができました。キャンプ用品はこういう困ったときに大かつやくできるので、持っていて本当に良かったです。

だいたい一時間半後に、電気がつきました。本当に安心したし、家ぞくもみんな笑顔になれました。

てい電はこわかったけど、この体けんをして色んなことを家ぞくで話し合い学ぶことができました。

まず、電気が止まったら困ることを考えてみました。

しょう明は部屋がまっ暗だと、身動きができない。物に当たってあぶない。

冷ぞう庫は冷やしている食べ物が悪くなったり、氷もとけてしまう。

冷ぼう、だんぼう機器は夏はエアコンや、せん風機が使えないと熱中症になってしまう。冬なら寒くてこごえてしまうので、これは命に関わるものだなと思いました。

おふろは水は出ても、お湯をわかすことができなくなってしまう。

じゅう電はスマホが使えてもいつかはじゅう電がなくなってしまって、家ぞくとのれんらくや、色んな情ほうを見たり聞いたりすることができなくなってしまう。

次に、てい電に必要なものを考えてみました。

まずは、水と食料品をたくさんじゅんびしておく。ランタンなどは、じゅう電していつでも使えるようにしておく。暑さ、寒さ対さくグッズをじゅんびしておくなど、もっとたくさん必要なものがあるということが分かりました。もしてい電になってもみんなが安心してすごせるように、必要なものをしっかりじゅんびしておくことが大切だなと思いました。

最後に、てい電で電気がついたしゅん間のうれしさと感動した時の気持ちを忘れずに、今まで以上に、電気を大切に使って、自分ができることから節電を始めようと思います。